

1. 授業の概要(ねらい)

本講義のテーマは「親子関係・仲間関係の発達とその影響」である。

親子関係は人の子どもが生存・成長するためにはなくてはならない関係であり、仲間関係は社会とのかかわる基本の学びを提供する。本講義では生まれてから死ぬまでの生涯発達を視野にいれて、親子関係や仲間関係の中で変化する人間のありようと、その中で抱える困難やつまづきに対する支援方法を明らかにする。

授業では基本的な事項の講義を行うとともに、文献や資料を読んで発表したり、アセスメント法を体験したり、グループに分かれての討論を行うなど、多様な方法によって学びを深める。それらを通じて、「発達の観点」に立つ発達の問題に対する見方やアプローチの視点を身につけることを目指す。

2. 授業の到達目標

- ①親子関係・仲間関係が人の発達にどのような影響を及ぼすのか、理論や近年の知見を知る。
- ②人の発達上に生じる困難やつまづきを「発達の観点」に立って理解することができる。
- ③発達心理学に関する文献や資料を読み込みながら、自分なりの考えを持ち、発表することができる。
- ④親子関係や仲間関係に関するアセスメントを実習することで、自己理解を深める。

3. 成績評価の方法および基準

期末レポート(50点:テーマは授業の中で提示する)、授業中の発表・リアクションペーパー(50点)

4. 教科書・参考文献

参考文献

秦野悦子・近藤清美 発達心理学 医歯薬出版
山崎晃・藤崎春代 臨床発達心理学の基礎 ミネルヴァ書房
西本絹子・古屋喜美代・常田秀子 子どもの臨床発達心理学: 未来への育ちにつなげる理論と支援 萌文書林

5. 準備学修の内容

授業の前に文献・資料を渡すので、それらを読んできて授業に備えるとともに、発表の分担者は発表の準備をする。また、討論に参加できるように、他の人の意見や考えについて、資料を読んで意見を考えておく。興味のひかれた発達上の問題について、日頃から自分でも調べ学修を深めるようにする。

6. その他履修上の注意事項

授業内容によってはグループに分かれて行う(受講者の数によっては変更)。発表や討論に積極的に参加し、主体的に学ぶことを求める。

7. 授業内容

- 【第1回】 人が人の中でしか発達しない生物学的根拠(オンライン)
- 【第2回】 養育が決める生物学的リズム:概日リズム・睡眠リズム(文献発表)
- 【第3回】 アタッチメント理論:養育者との関係と発達への影響
- 【第4回】 アタッチメント・パターン:アセスメント法の体験と討論
- 【第5回】 アタッチメント対象の広がり:誰がアタッチメント対象か(討論)
- 【第6回】 大人におけるアタッチメント
- 【第7回】 内的作業モデルと情報処理・脳科学(文献発表)
- 【第8回】 恋愛と夫婦関係:アセスメント法の体験と討論
- 【第9回】 アタッチメントとコンパニオンシップ:人にとっての仲間とは
- 【第10回】 子どもの遊びの発達と遊び仲間(文献発表)
- 【第11回】 コンボイモデル:アセスメント法の体験と討論
- 【第12回】 親子関係・夫婦関係と子どもの養育:養育の世代間伝達
- 【第13回】 養育困難に対する関係性からのアプローチ
- 【第14回】 サクセスフルエイジングと重要な他者の喪失(文献発表)
- 【第15回】 人の発達における親と仲間,世代をつぐむこと(オンライン)